【研究課題名】
腫瘍の炎症性微小環境に携わるケモカインシグナル解析

【研究概要】
本研究は本大学附属病院で手術を受けた患者さまのヒト卵巣検体を用い、卵巣がんに共存することの多い子宮内膜症性嚢胞と、がん検体におけるケモカイン受容体各バリアントとリガンドの発現パターンを解析し、炎症を母地とする発がんにおけるケモカイン受容体バリアントの役割の違いや、がんにおいて活性化するバリアントのシグナル経路を解明する。

【本研究の医学的意義】
卵巣がんに伴って起きる炎症を制御することによって、卵巣がんを治療できるようにする為の研究です。

【分担研究者】
横浜市立大学医学部産婦人科学　教授　平原史樹
助教　佐藤美紀子
横浜市立大学附属病院化学療法センター　准教授　宮城悦子

【試料提供協力】
横浜市立大学附属病院　産婦人科、泌尿器科